



西高新聞

NAGASAKI NISHI INFORMATION

信頼され続ける学校 学びがいのある学校 居場所のある学校

第301号
令和6年12月24日 発行
編集責任者 初村 一郎
<http://www.nagasaki-nishi.ed.jp>

校長室から

「大人になったら」

校長 初村 一郎

元気がないので病院へ連れていき、お医者さんから「食欲はありますか？」と聞かれた我が子は、親の目の前で「おかずによります」…こうした恩知らずな子どもも、やがて大人になります。

私の年代では、大人の仲間入りと言え、**「万年筆」**。それまでは鉛筆やシャープペンしか持ったことがなく、鮮やかなブルーブラックのインクの色に喜びと緊張で心躍らされます。以前、高校を卒業した友人の息子にも万年筆をプレゼントしました。

鉛筆は消しゴムで何度でも書き直すことができます。最近はフリクションペン（消せるペン）まで登場し、威厳の無さが気になります。万年筆は一発勝負。間違えずに文字を書く自信がなければ使えません。そういう**「大人の覚悟」**が試されます。字の上手下手ではありません。字は心を映すもの。心を込めて丁寧に「自分らしい字」を見つけてほしいと思います。

将来、自分でお金を稼ぐようになったら、高級車や宝石ではなく思い出を買うこと。そして、万年筆を買ってほしい。デジタルの時代、モノがあふれる時代ではありますが、自分の大事なとき、勝負のときに使う、取って置きの1本。そんな万年筆を持つておくことは、きっと心の支えになってくれるはずです。

職場の先輩や後輩とは、とことん話すし、とことん聞くし、遠慮をしないこと。悪口を言っても結構。そのかわり、必ず本人の前で笑えるように変換すること。ユーモアと謙虚さを大切に、みんなをお日さまみたいに照らしてほしい。そして、正しいことを言うときは、人は傷つきやすいものだとかわかっていたほうがよい。そういう**「大人の心構え」**も大切にしてほしいと思います。

大人になったら飲み会はつきものです。たまには3次会まで行くこともあっていい。そこまで残った人にしか聞けない話があります。酔っぱらった先輩の面白い話を酔いつぶれるまで聞くのも、案外楽しいものです。それまで気づかなかった人情味あふれる一面を発見するのはこういうときかもしれません。

やがて、子どもは大人から親へと変身し、家庭を持ちます。もちろん、自分の育った家庭がお手本になります。よく耳にするのは、「お母さんの味噌汁はおいしかった」「毎朝、起こしてくれて感謝していました」などで、次代の家庭へ受け継がれていきます。なぜか**「お父さん」**をお手本にする話が思い浮かびません……(笑)。

第44回同窓会講演会 心に響く人生の達人セミナー 10月31日(木)

創立記念日には、社会の第一線で活躍されている本校卒業生を講師に招いて同窓会講演会を開催しています。今年は、本校第51回卒業生である小林洋平（こばやし しょうへい）氏（日本ベネックス代表取締役社長）をお招きし、『未来へひらく、もう一つの考え方』と題して講演をしていただきました。小林氏は在学中ラグビー部に所属。卒業後、東京大学の理系学部に進学されました。大学卒業後は大学の研究とは異なる職種の一般企業に就職。現在は日本ベネックスで代表取締役社長として才能を発揮し、会社経営及び環境問題の改善など社会貢献に尽力されております。講演では「高校時代は人前に立って話すのが苦手、成績もずば抜けて良い訳ではなく自分が社長になったと聞いたら、同級生の人たちは驚くだろう」と話され、「企業の中で培った営業のノウハウや危機的状況の改善などが今の仕事に活かされている」「人生どんなことが役に立つかわからないので高校では様々なことにチャレンジしてほしい」と言われ、最後に「友達は人生の宝物なので大切にしてほしい」「沢山の挑戦、沢山の失敗をしてほしい」「目の前のことを必死でやり抜けば次の道は切り開かれる」と伝えられていました。在校生からの質問に対し、人生はチャンスとタイミングが大事であると答えられていました。同窓会主催による講演会も今年で44回目を迎えました。講演会にご出席いただいた村田同窓会会長をはじめ同窓会の方々には、講師の人選などさまざまなご支援・ご協力をいただきました。在校生のために、各界の第一線でご活躍されている先輩方から、貴重なお話を直接聴くことができる機会をいただいたことに、心から感謝申し上げます。



【同窓会事務局 山本 禎明】

第32回衛星設計コンテスト 11月23日(土)

本校物理部は、東京都で行われた第32回衛星設計コンテスト最終審査会に出場し、ジュニア大賞（日本一）を受賞することができました。全国33件の応募の中から書類審査によって選ばれた7テーマによる最終審査会が行われ、6年ぶり5回目の日本一となりました。

研究テーマは「戸締まり状況確認模擬衛星 SUZUME」です。電源管理、無線通信、姿勢制御、画像認識など、人工衛星と同様なシステムをもつ「地上模擬衛星」を水面に浮かべて、校舎の窓の戸締まり状況を画像認識により確認して閉め忘れがあれば知らせてくれる戸締まり監視システムを製作しました。複数のマイコンをPythonのプログラムで制御することや、使用したすべての部品が簡単に入手可能な民生部品であることが特徴で、他の高校生が参考にできる、高校生による高校生のための地上模擬衛星製作の教材化の取組になるように工夫しました。

今後も宇宙に関する研究を中心に、電子工作やプログラミングを物理部の伝統として継続していきます。



【物理部顧問 田中 潤】

西高イルミネーション点灯式・受験横断幕披露 10日(火)

毎年恒例の「西高イルミネーション」の点灯式を10日(火)に開始しました。この取組は、受験を直前に控えた3年生の激励と、冬の寒さの中、部活動に励む1・2年生を応援することを目的に行われています。今年も生徒会役員、ボランティア委員、水球部、女子バスケットボール部の生徒たちが協力して、試行錯誤しながら美しいイルミネーションを完成させました。また、今年も本校OBの田中電機様のご協力をいただき、配線の調整や、雨対策のビニールの取り付けなどを行っていただきました。本校に来校される方々、地域の方々をはじめ全ての方にとって少しでも心惹かれるイルミネーションになればと思っています。点灯は来年の1月17日(金)まで行います。また、受験に向かう3年生を激励する横断幕を1・2年生が作成し、12月10日(火)に披露しました。書道部の生徒の揮毫による「勇往邁進」の4文字とともに書かれた、後輩たちの熱いメッセージを励みに、志望校合格を目指し受験に立ち向かってくれることを期待しています。

【自律活動部 竹村 和真】



<放送部>

令和6年度全九州高等学校総合文化祭【福岡大会】

12月13日(金)～15日(日)の3日間にわたって第46回九州高校放送コンテスト福岡大会が、福岡工業大学FITホールで行われました。本校からはラジオ番組部門に、自分を偽りながら過ごす苦悩を描いたドラマ『ソラゴト』、テレビ番組部門に、日本と海外のハンドサインの違いをテーマにしたドラマ『My sign』を出品しました。1日目に受付、2日目に各部門準決勝、3日目に決勝が行われ、ラジオ番組部門で『ソラゴト』が見事奨励賞を受賞しました。九州・沖縄8県の代表が競うレベルの高い大会で発表・交流できたことは、貴重な体験になったと思います。今回学んだことを普段の放送活動や今後の大会に生かして、更なる向上を期待します。

【放送部顧問 西井 彩音】

<書道部>

全九州高等学校総合文化祭書道部門に2年本庄紗菜さんが参加しました。席上揮毫大会では、優秀賞をいただきました。これは、2時間で作品を創作する大会で、五言律詩を2首、隸書体で書いています。2時間で1枚しか書けない大作なので緊張したと思いますが、整った作品となりました。また、交流会では、九州国立博物館や太宰府天満宮で絵馬を書いたり、散策したり、充実した活動となりました。

【書道部顧問 嶋田 弘子】



<美術部>

12月13日(金)～15日(日)福岡市で行われた第8回全九州高等学校総合文化祭美術・工芸部門に、2年熊谷洸乃さんが参加しました。熊谷さんは通学路の途中に川で見かける亀をモチーフに『椿谷の五月』というタイトルの絵画を出展しました。これは県の総文祭で優秀賞を獲得した作品です。1日目は総合開会式と作品鑑賞会があり、2日目は九州各県から参加した生徒と8人の班に分かれて、あるテーマを基に動画を作成しました。3日目は講評会と講演会があり、充実した3日間になったと思います。今回の経験を今後の創作活動に生かしてくれることを期待しています。

【美術部顧問 植木 正明】



ベトナム修学旅行を終えて

西高通算8回目のベトナム修学旅行を実施しました。事前に開催した結団式では、「戦場のメリークリスマス」の演奏が披露され、新興国の現状を体感すると共に平和への思いを強く意識しての訪越となりました。12月2日(月)のA班出発を皮切りに、B班の12月7日(土)の帰国まで4泊5日の海外修学旅行でした。78回生の生徒たちは、多様な文化や国際的な価値観をその身をもって体験するだけでなく、英語によるコミュニケーションの重要性など、さまざまな気づきや発見があったと思います。またハロン湾クルーズでは雄大な世界遺産の景色に圧倒されたり、ベトナム高校の生徒たちと音楽やスポーツを通して交流したりと、ベトナムならではの経験は非常に貴重で得がたいものになったはずです。日本という島国を飛び出して、世界の広さを思い知るにつれ、将来の夢を膨らませた生徒もあり、大変有意義な研修旅行になったと感じています。

【2学年主任 石橋 可巳】

～生徒感想より～

○今回の修学旅行は人生初の海外で、何もかもが刺激的だったし、クラスの人と4泊5日一緒に過ごすことですごく仲が深まりました。色んな人の支えがあったおかげで一生忘れられない、いい思い出になりました。
○ハノイはすごく都会で、街もイルミネーションされていたり、屋台やバイクがたくさんあったりして、どこを眺めても異世界で楽しすぎました。もちろんホテルも最高すぎました！友達と夜遅くまでしゃべったり、遊びまわったりしたのは一生の思い出です。
○衛生面や文化面で、行く前は不安がいっぱいだった修学旅行でしたが、海外でしか経験できないような感動や驚きが沢山あって本当に楽しかったです！ベトナムに行けて良かったです。
○初めて見る伝統楽器やベトナムでの食事、ハロン湾の入り組んだ地形など、どれも日本で味わったことのないものを五感を通じて感じ、全てが新鮮で世界の広さを目の当たりにすると共に、自分は日本人であり、日本の物差しで他の国を見ていたことに気付いた。

